講座　磯子で日本語ボランティア入門
実施報告書

主催：(公財)横浜市国際交流協会

磯子区との連携による地域日本語教育推進モデル事業は今年で4年目になります。横浜市内の外国人住民が年々増えている中、磯子区内の在住外国人も5,750人に増え、住民の30人に一人の割合となっています。（2023年7月末現在）

講座では、これから日本語ボランティアを始めたい方が日本語学習支援について学び、実際の活動につながることを目指しました。日本語支援に関心のある人が増え、外国人の日本語学習環境が整うことは、区内の外国人とのコミュニケーションの円滑化にもつながります。

講座を企画する上では、区役所のほか、いそご多文化共生ラウンジや区内の日本語教室ボランティアの方々と話し合いました。受講者が地域とつながれるよう、地域日本語教室の方とより多く触れ合う時間を取ろう、など工夫をしました。その結果、受講者同士が触れ合えるワークを行ったり、地域日本語教室の方との交流会をするなど、多くのコミュニケーションが生まれる時間となりました。

講義の内容は、日本語の仕組みや特徴など言語に関すること、日本語教室や日本語ボランティアの役割など地域の日本語支援に関すること、具体的なコミュニケーションのとりかたなど、多岐にわたりました。

講座では、体を使って行ったアクティビティによって、受講者の緊張がほぐれ笑顔となりました。このような体験も、実際にボランティア活動をするうえで役にたつと思います。

受講者のみなさんがさらに興味を持ち、日本語交流を始めてくれたら嬉しいです。

体を使った楽しいウォーミングアップ

参加者の声

✨同じ地域の人同士が同じことを学べる時間があり、楽しかったです。先生の講座を受けられてうれしかったです。どんな人でも住みやすい区になったらいいと思いました。

✨先生の話が分かりやすかったです。タイ語の体験はドキドキしましたが、外国の方はこういう気持ちなのかなと思えました。

✨日本語が複雑ということを改めて認識しました。きっかけがなかったので、こういう機会があってうれしいです。

✨日本語を教える側に他国の文化を知り、世界が広がるメリットがあることを知りました。

日時 場所
2023年11月21日・28日、12月5日（火）
全3回　　9:30-12:30

横浜市社会教育コーナー

講師
渋谷実希さん（東京大学教養学部非常勤講師）

対象
外国の方への日本語学習支援に興味・関心があり、今後磯子区内で活動してみたいと考えている人

内容
第1回・磯子区の多文化共生
　　　・日本語ボランティアとは
第2回・学習者としての体験
　　　・外国語としての日本語①
　　　・コミュニケーションのための「やさしい日本語」
第3回・外国語としての日本語②
　　　・日本語教室での交流活動を考えてみましょう

参加者数
受講者23名（のべ53名）
オブザーバー(区内日本語教室ボランティア)
　　10名（のべ19名）

開催
主催：磯子区役所地域振興課
共催：公益財団法人横浜市国際交流協会

よこはま日本語学習支援センター
Yokohama NIHONGO Support Center
https://yokohama-nihongo.com
運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

「知りたい･やってみたい･つながりたい」をサポートします！

©2023 Yokohama Association for International Communication and exchanges(YOKE)

2023(令和5)年度 事業報告

講座　磯子で日本語ボランティア入門 実施報告書

主催：(公財)横浜市国際交流協会

第1回　11/21（火）
9：30-12：30
- 磯子区の多文化共生
- 日本語ボランティアとは

講座では、多様な人々との心地よいコミュニケーションを目指しました。
まず区役所職員による区内の外国人状況・区の多文化共生の取組についての話を聞きました。
続いて講師による講義です。地域日本語ボランティア教室の特徴や求められる役割について、日本語学校と比較しながら説明していただきました。
また、「無意識の思い込み、ものの見方やとらえ方の歪みや偏り」であるアンコンシャスバイアスについても学びました。例えば「外科医」といえば、女性ではなく男性を想像しがちではないでしょうか。同様に日本語学習についても「学習者は日本人のように正確な日本語が話したいはず」というのは思い込みかもしれないとの話には、納得する人が多かったようです。このような思い込みは外国人と接するときに限りません。生活や交流活動の中で、気づくこと・意識することが思い込みをなくすことにつながり、多角的な視点から背景を考え、多様な考え方を理解しようとする姿勢につながるのでは、という講師の話などから、自身をふりかえりました。

第2回　11/28（火）
9：30-12：30
- 学習者としての体験
- 外国語としての日本語①
- コミュニケーションのための「やさしい日本語」

この回では、外国の人が日本語を勉強するとき感じる「外国語としての日本語」とその特徴を、主に文字の側面から学びました。
また、学習を始めたばかりの人にとって、通常の日本語での交流は難しく、そのギャップを埋めるために「やさしい日本語」が活用できること、そして、やさしい日本語の背景や、使うときのポイントについて学びました。学習者一人一人は、背景や日本語力・日本についての知識、必要な情報が違います。ですからやさしい日本語に正解はなく、その必要な情報が何かを考えながら伝えることが大切であることを学びました。
さらに、新しい言語に触れることはどんなことかを、タイ語で体験しました。短い時間でしたが、直接法（タイ語を使ってタイ語を学ぶ）の体験により、日本語を学ぶ学習者の気持ちも想像できるようになったようです。気づいたこと・感じたことを共有しました。

第3回　12/5(火)
9：30-12：30
- 外国語としての日本語②
- 日本語教室での交流活動を考えてみましょう

最初に全員が一言ずつ「新しいボランティア教室を立ち上げるとしたら、どのようなものにしたいか？」を発表しました。「親子が集まる所をつくりたい」「やさしい日本語を使って、身近な自然を知る活動をしたい」など、それぞれの個性を生かした理想の教室がたくさん出てきました。
その後、外国語としての日本語の特徴を、今度は音声や表現の側面から学びました。
言語学習では、辞書の意味を直訳するだけでなく、場面やニュアンス、相手との関係性を考慮したうえでやり取りすることがとても大事です。教室では、学習者が安心して学び、失敗もできるような温かい環境をつくりたいものです。そして、学習者が目指すコミュニケーションに近づくようサポートすることが重要だという話からは、ボランティアとしての自分は何ができるだろう？と考える機会となりました。

交流会

講座の最後に、区内7つの日本語教室のボランティアとの交流会を行いました。3グループに分かれ、興味がある教室活動や日本語教室について、より具体的な内容を聞くことができました。地域の交流拠点、いそご多文化共生ラウンジの紹介もありました。
講師の渋谷さんより「皆さんのご活躍を応援します」のエールをもらい、計3回の講座が終了しました。

よこはま日本語学習支援センター
Yokohama NIHONGO Support Center
https://yokohama-nihongo.com
運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

「知りたい・やってみたい・つながりたい」をサポートします！

©2023 Yokohama Association for International Communication and exchanges(YOKE)